



# 2015-2016年度 広島北ロータリークラブ週報

世界へのプレゼントになろう

国際ロータリー会長 K.R.“ラビ”ラビンドラン 氏  
国際ロータリーテーマ

Be a Gift to the World  
世界へのプレゼントになろう

■会長 山下 正司 ■幹事 上河内 裕司  
事務局 広島市南区松原町 1-5 ホテルグランヴィア広島 6F  
TEL 082-506-0050 FAX 082-506-2530  
E-Mail:hnrc@world.ocn.ne.jp URL http://www.hnrc.jp/  
例会 毎週木曜日 12:30 ホテルグランヴィア広島

■本日の例会	2016年6月16日(木)	第2273回
ロータリーソング	「手に手つないで」	
来客紹介	親睦委員会	
会長時間		
幹事報告		
委員会報告		
ニコニコ箱		
卓話時間	『退任挨拶 Part1』	理事役員委員長

ただし、あくまでもメイクアップの救済措置としての便宜を図ったものですから、出来るだけ途中退席等はしないで最後まで例会に参加し、友情と親睦を深めて頂きたいと思っております。  
さて、今年度最後の来賓卓話となります、本日の卓話の時間ですが、講演を頂きます脚本家の鴨 義信(かも いしん)様をご紹介します。1969年3月広島県三次市生まれの広島育ちで現在47歳と伺っています。今日は「映画で広島を盛り上げる」と題して30分と短い時間ですが興味深い話が聞かせて頂けると思っております。  
後ほど楽しみにしておりますので、よろしく願いして会長の時間を終わります。

## 前回の例会 2016年6月9日(木) 第2272回

ロータリーソング	「われらの生業」
来客紹介	親睦委員会
連続出席表彰	
会長時間	
幹事報告	
委員会報告	
ニコニコ箱	
卓話時間	『映画で広島を盛り上げる』 脚本家 鴨 義信 氏

## 連続出席表彰



21年 山坂会員、11年 下前会員・粟屋会員・中根会員、8年 塩本(能)会員、6年 島本会員、1年 本田(裕)会員 (欠席:3年 小河会員) おめでとうございます!

## 会長時間 会長 山下 正司

皆さんこんにちは。来客の皆さんにはようこそお越し下さいました。「ロータリー親睦活動月間」に因んで 2点紹介と報告を致します  
1) 先ほど来客紹介で有りました東城RCの会員の方に例会に参加頂いておりますが、入会間が浅い会員の方にご紹介しておきたいと思っております。東城RC(創立50周年を超える歴史あるクラブ)北 RCが7年前に帝釈峡で実施した「サニーピアキャンプ」と言う社会奉仕事業で現地における様々な支援を頂き、この事業を通してその時以来交流を深めいまだにお付き合いをして頂いているご縁で今日もメイクアップに来て頂いたようです。  
2) 今週5日(日曜日)に広島北RC創立25周年記念ゴルフ大会が安佐RCと共に3RC合同コンペとして開催され北RCからも15名で参加いたしました。また夜には成績発表と懇親会が催され、こちらにも昼間のゴルフに参加されなかった会員にも参加頂き 親・子・孫クラブとして同好会を通じて「友愛と親睦」の輪を広げる事が出来たように思います。

また、以前から少しずつ報告をさせて頂いておりましたが 今週の8日水曜日には正式に同意書が交わされましたので、広島北RCと広島北RCとの間でメイクアップがフリーとなります。これはホームクラブの例会を休む時には他クラブにてメイクアップをしなければいけません、その際のガジェット費について、親子関係にある両クラブに限ってお互いのクラブにおいて精算をしますので無料で参加できると言う事になります。

## 幹事報告 幹事 上河内裕司

\*6/30最終夜間例会&新会員歓迎懇親会の回答を未提出の方は、早急に提出をお願いします。  
\*事業報告書の修正期限は次週15日(水)です。お忘れのないようお願い致します。  
\*新会員候補者のお知らせ(BOX配布)

## 委員会報告

広報常任委員会 杉町常任委員長  
次週のプログラム時間で行われる退任挨拶ですが、各委員長には原稿を提出の協力をお願いいたします。  
メールでのご提出をお願いいたします。  
財団プログラム委員会 佐々木委員長  
鈴木会員より香典返しとしてロータリー財団にご寄附頂きました。ありがとうございました。

同好会報告

ゴルフ同好会 藤原会員

6月5日開催の3RC合同ゴルフコンペ報告と7月度の取り切り戦についてのご案内



6月多打喜会優勝  
泉 正夫 会員  
おめでとうございま  
す！

多打喜会下期取り  
切り戦優勝  
丸本佳生 会員  
おめでとうございま  
す！



小林(孝)会員・金井会員・山村会員・丸本会員・小林(直)会員  
鴨義信様、本日の卓話よろしくお願い致します。  
中川良男会員 小林直哉さん、PHP“全国のソルフードを食す”  
に記事が載っていました。頑張りましょう。  
山村会員 今週の金曜日、柏村武昭さんのFM広島「だんランラ  
ジオ」に12時より出演させていただきます。  
山坂会員 お陰様で21年。  
粟屋会員 お陰様で11年連続出席となりました。あっという間の  
11年でしたが、引き続きご指導頂きますようよろしくお願い致しま  
す。  
下前会員 ローター歴が11年になりました。これからも宜しく願  
いします。  
本田(裕)会員 連続出席1年の表彰ありがとうございました。あっ  
という間の1年でした。楽しく出席させて頂いております。  
泉会員 6月の多打喜会にて久しぶり(3年ぶり)に優勝できまし  
た。ハンデイヤップに感謝!!  
丸本会員★ 6/5の3RC合同ゴルフ大会で久々77点で回る事が  
出来ました。下期取り切り戦も兼ねているとは知らず、上期、下期  
も優勝してしまいました。  
《ニコニコオークション》  
先日開催された3RC合同ゴルフコンペの入賞品の「ハーベキュー  
ンロセット」を迫慎二会員が10,000円で落札しました！洋北山歩  
隊で活用されるそうです！

当日計 66,000円(内、web10,000円) 累計 1,470,900円

★=10,000円 ☆=5,000円 ◆=3,000円 ◇=2,000円

次年度幹事報告

次年度幹事 岡部 知之

\*地区大会仮登録のお願い

10月29日(土)・30日(日) 広島で開催されます。  
今回は広島中央RCがホストを務めますので、例年に倣い、全  
員登録を依頼されておりますので、よろしくお願い致します。  
登録料 14,000円(個人負担)



ニコニコ箱

ニコニコ委員会

《お客様出宝》

東城RC 坂部由香子様 久しぶりにメイクアップに参りました。どう  
ぞよろしくお願い致します。  
東城RC 後藤茂行様☆ 初メイクアップです。山下会長には公私  
共々お世話になっています。宜しくお願いします。  
広島陵北RC 久保弘睦様 昨日の調印式では山下会長、中山  
次年度会長には大変お世話になりました。本日、第1号としてメ  
イクアップに参りました。よろしくお願い致します。

《自主出宝》

山下(正)会員・東会員・上河内会員・藤田会員・吉永会員  
脚本家 鴨義信様、ようこそ、広島北RCにお越し頂きありがと  
うございます。本日のお話大変楽しみにしております。よろしくお  
願いいいたします。  
山下(正)会員・東会員・上河内会員・藤田会員・吉永会員  
6月2日に行われました、今年度新現引継ぎクラブ協議会は皆様  
のご協力の元、無事終了することが出来ました、ありがとうございました。今年度も残りわずかとなりましたが、気を緩めないように  
運営を行ってまいりますので、ご協力の程、よろしくお願いいたし  
ます。  
山坂会員 東城RCの坂部さん、後藤さん、ようこそ北クラブの例  
会に！ 山下会長をしっかり見て帰ってください。  
合田会員 東城RCの後藤さん、ようこそお越し頂きました。また  
ゴルフも教えて下さい。  
金井会員 鴨さん、世界を代表する脚本家になって下さい。広  
島を題材にした映画を楽しみにしています。

卓話時間

『映画で広島を盛り上げる』

脚本家 鴨 義信 氏



鴨 義信(かも いしん)です。  
今日はありがとうございます。  
物書きなので、しゃべりは下手  
ですが、よろしくお願いしま  
す。  
まず初めに映画『夏休みの地  
図』『ハッピーランディング』と、  
こちらの会員の方々にもたくさ  
んご協力いただきまして、この  
場をお借りしまして感謝申し上  
げます。ありがとうございました。  
今日は、「映画で広島を盛り上  
げる」ということで、私がどの  
ように脚本家になったのかとい  
うこと、そして映画で、どう  
広島を盛り上げていくか、そ  
ういう流れでお話ししようと思  
っております。  
脚本というのは、なかなか皆  
さん、馴染みがないかもしれ  
ませんが、建築でいえば設計  
図です。どういう状況で、ど  
ういうセリフを、ということ  
を書いて、これでスタッフが動  
いていくという、一番、基  
になるものなんですけど、現  
在1,000人いるかないか、また

全国映画公開とか連続テレビ、ゴールデンのドラマとか書いている人になると100人いるかないかぐらいの、絶滅危惧種職というか、もうなくなっていく職業かもしれません。

僕がどう脚本家になったかなんですけど、最初に映画学校に入りました。今村昌平という日本を代表する監督の学校なんですけども、『黒い雨』とか『楢山節考』、『復讐するは我にあり』とか、本当に名作を撮っている監督です。

ここで、学生時代から、僕は学校に行かずに、現場に出て助監督をしていました。卒業後にいろいろな部署から声がかかって、現場に出ようかと思ったんですけど、アメリカに行きました。普通だったら、映画の勉強でニューヨークかロサンゼルスなんですけど、僕はハワイに行きました。なんでハワイなのか、ちょっと覚えてはいないんですが。別に、映画はもういいかなという感じであったと思います。ハワイで英語学校に行きながら、海でぼーっとしたりとかして。

そうしたら、当時、ご存じかもしれませんが藤田小女姫殺人事件という、有名な古い師さんが殺された殺人事件です。

僕はたまたま犯人と知り合いでして、ちょっといろいろ面倒なことになったんですが、もちろん僕は殺人は犯していませんし、何もしていません。

これは、日本人が海外で複数の日本人を殺して、外国の法によって裁かれた初めての事件です。いつかこれは、僕は映画にしたいなと思っております。これは話が逸れますので、またの機会に。

そんなこんなをしているときに、ある日、ハワイで映画撮影があると新聞記事に出まして、また映画をやりたいなというのがドクドクと来まして、そうしたら、『ピクチャーブライド』という映画なんですけど、そのスタッフの車が道路に走っていたんですね。僕は自転車で追いかけていって、信号待ちのところで捕まえて、仕事くださいと。俺、日本で助監督をしていたんで仕事くださいってお願いしたら、人手が足りないからすぐ来いと言われて、なんかあっさりとアメリカ映画に潜り込むことができました。

これが、主演は工藤夕貴と、三船敏郎さんが、たぶん最後の撮影であったと思います。あとは全部アメリカ人なんですけど、アジア系俳優、アメリカ人のアジア系の人がたくさん出ておまして、そこで僕の人生において、すごく大切な出会いが一つありました。それがケイリー・ヒロユキ・タガワという人です。

この人が、アジア系ではトップ俳優なんですけど、次にハリウッドで大きな仕事があると、だからおまえも来いよと。たぶん冗談で言ったんですけど、僕は本気にしまして、ロサンゼルスに行きました。それで、彼の紹介でニュー・ライン・シネマという会社で仕事、その作品に携わることになりました。

それが、ちょうどジム・キャリーの『マスク』という映画の撮影後で、このスタッフと同じスタッフで『モータル・コンバット』という、日本であまり知られていないかもしれないんですけど、ゲームを映画化した作品で、この監督がポール・W・S・アンダーソンとって『バイオハザード』シリーズをつくらっている、今はもうハリウッドの大物監督、ミラ・ヨヴォヴィッチの旦那で、今度、日本人のローラがこの新作に出るんですが、これに現場で入れてもらいました。

そこでプロダクション・アシスタントという、一番ペーパーでハリウッドに入りまして、アメリカに来て2年弱でハリウッドに入れたんで、ハリウッドってめっちゃ壁が低いやと思ったんですけど、ものすごく分厚くて、それを知るのには数年後なんですけど、こういう映画をやりながら、コマーシャルの仕事も始めました。

その当時、まだ、ハリウッドスターを日本のコマーシャルで使うというのが、すごく多くて、映画監督のクエンティン・タランティーノと千葉真一さんと、携帯電話のコマーシャルをやりました。「シャベリタランティーノ」と言うんですけど、この人が。駄じゃれですよ

ね。

それで、タランティーノが深作欣二監督の大ファンということで、千葉真一さんが、それなら2人を会わせようということで、深作欣二監督をロサンゼルスに呼びました。ロサンゼルスから車で3時間くらい行ったところにパームスプリングスという、まちがあるんですけど、そこで1泊か2泊で、泊まりでみんなで会いましょうとなり

ました。僕は深作欣二監督とタランティーノが大好きだったんで、こんな夢のような機会を逃すまいと、呼ばれていないけど勝手に行きましました。それで、なんでおまえがいるの？ みたいな顔はされたんですけど、普通にいて、ご飯を食べているときに映画をつくらうとなって、深作欣二監督、タランティーノと千葉真一、ダブル主演で。そこで僕が、その脚本を書かせてくれと、当時まだ全然、脚本家でもなんでもないんですけど、言いました。そうしたら、深作さんが初めて僕に気づいた、見て、おまえさん誰だと。そこからいろいろ質問攻めに遭いまして、それから監督との付き合いが始まりました。

当時、深作監督は日本映画監督協会の理事長をされていて、ちょくちょくアメリカに来ていたんですね。それで、そのたびに呼んでもらえるようになりまして、仲良く、いろいろしてもらいました。そのときに、当時、僕は真っ黒だったんですけど、「おまえ色黒いけど、どうしてんだ」っていうから、海に行っているんですけど、海に連れていけと言われて、マリブビーチというところに連れていって、そこでいろいろな話を監督にしてもらいました。

そのときの言葉が、やっぱり今の僕の支えの言葉がいっぱいあるんですが、そのなかの一つですが「人生には必ずチャンスが来る」と。「多い人で3回、少ない人で1回は必ず来る」と。「だから、それまでは腐らすに、チャンスが来たら取れるように準備をしておけ。準備を怠るやつは、失敗の準備をしているんだ」と。よっぽど僕が腐って見えたのかもしれないんですけど、腐るなと言われました。

それで一応、監督に、監督は何回チャンスがあったんですかって言ったら、当時、2回だ。一つ目は『仁義なき戦い』、二つ目は『蒲田行進曲』。この数年後に『バトル・ロワイアル』という映画で当てて、ちゃっかり3回、自分のなかでチャンスをつくらっていかれましたけど。

そういう監督とかの出会いがあって、僕も30歳までに何者かになるって、何もプランはないんですけど決めていたんで、29歳のころ、日本に帰国しました。

コマーシャルの仕事をやっていたんで、制作会社とか、電通テックとか、いろいろお誘いを受けたんですけど、会社勤めをしたことがなかったし、ちょっと無理だなと思って、やっぱりまた映画の世界、脚本の世界に行きたいなということで。僕が行く前に助監督をしていたときの知り合いが、みんなプロデューサーになったり監督になったりとか、ちょっと偉くなっていて、それで仕事をもらいました。先日亡くなられた、元伝説のヤクザで東映の俳優さんだった安藤昇さんという人の自伝小説、ヤクザ映画なんですけど『安藤組外伝 群狼の系譜3』という作品で、脚本家デビューしました。

本当はコンテストを受けたりとかで認められたりとか、そういう感じで脚本家になる人が多いんですけど、僕は本当にそういうことができなくて、なんとなく、人の関係で脚本家になれたと思っています。今日まで18年間、脚本家をやっています。一つだけの自慢が、18年間毎年、最低1本ですけど、世の中に作品が出ています。これだけは可能な限り、続けていきたいかなと思っております。

その映画で、映画をつくりたいと、やっぱりずっと思っていて、2012年に制作会社クォーボ・ピクチャーズというのをつくりました。映画をつくるための会社です。

私は東区で育ちまして、二葉山に登って仏舎利塔から見える景色が人生のすべてで、いつかここから出たいって、ずっと思っていたんですが、アメリカに住んで日本を外から見たことによって日本の良さとかを知って、自分の根っこは、やっぱり物を書くときって、すごく自分と向き合んですけど、自分の根っこって、やっぱり広島なんだなど、ものすごくそれは実感しまして、初めて映画をつくる場合は広島でつくりたいと。そう思って、この会社をつくりました。

それで、広島は本当に世界的に知名度のある街ですし、海も山もあって、チンチン電車も走っていて。住んでいると気づかないかもしれないけど、ものすごく絵になる風景がいっぱいあるんですね。それで、天候もすごくいいし、撮影しやすいという。ものすごく映画撮影に向いている土地です。

やっぱり原爆のイメージだけじゃなくて、映画文化のまちにしたいと、僕はそれは勝手に思っていました、ちょうど駅周辺の再開発のときだったので、この景色を忘れないように、受け継いでいくというテーマで『夏休みの地図』という映画をつくりました。広島に関係のある監督ということで、広島出身ではないですけど『仁義なき戦い』を撮った深作欣二監督の息子の深作健太監督で、この作品を撮りました。

故郷で、ふるさどで映画を撮るって、ものすごく楽しいんですけど、実はすごく大変で、大変なことだというのは気づいたんですけど。というのも、下手したら帰れなくなる。いろいろな悪評も立つかもしれないですし、ご迷惑がかかるかもしれないし、何が起るかわからない。それで結局は、もう地元に戻れないという可能性もあるということも、やりだして気づいたんですね。

でも、やっぱりそうしたくないから、本当に紹介してもらった方たちの顔をつぶさないようにとか、いろいろやって、自分も故郷をなくす覚悟があるよというつもりで、映画をつくりました。

広島出身の監督って意外とすごく多いんですけど、やっぱり撮っていないんですね、広島で。そういうことも、やる前から分かっているんじゃないかと。みんな、賢いんですから。僕は、ばかだから、すぐやっちゃえということでガンガン映画をつくっていったんですけど。でも、やっぱりこれは続けていかないと本当に意味がないことなので、映画で、もう広島にこだわって映画をつくっていきたくて思っています。

ここ数年、ものすごく広島で映画の撮影があります。やっぱり広島の皆さんは撮影にも慣れてますし、すごく協力的なんで、映画業界でも撮影しやすい場所だというのが知れ渡っている。一度は皆さん、広島で映画を撮るんですけど、続けて撮るとい人は、なかなかいません。

一度は楽しい思い出とかってなるんですけど、やっぱり人が育たないですし、僕は広島を映画の文化のまちにしたいと、映画や演劇に興味を持ってくれる人たちを増やしたいと思っていますので、広島にこだわって映画をつくりたいです。それが、この広島のまち、生まれ育ったまちと、僕を受け入れてくれた映画界への恩返しでもあるし、発展にもつながると思っています。

それで、どのように映画を盛り上げるかということなんですけど、この三つです。演技ワークショップ、広島映画製作、演劇祭。

演技ワークショップというのは、広島で撮影したときに、やはり、いきなりやれと言われてもなかなかできないものなので、これは土台づくりとして、もう5年前から、不定期なんですけど、広島で続けています。これは、エンターテインメント業界で活躍できる俳優を、広島から生み出すことを実現するためにやっています。

俳優をやりたいという人、ものすごくいるんですけど、東京以外の場所で指導や講義を受けることが、ほとんどないです。地方と東京は、ものすごくそういう意味で格差があるので、そういうのを解消したいと思っています。一応、僕も映画業界に25年いますんで、いろいろな人脈で、日本映画やテレビドラマの一線で活躍する監督たちを呼びまして、やっています。

武正晴監督というのは、このあいだアカデミー賞、『百円の恋』というので総なめにした監督なんですけど、そういう監督たちから指導されるということで、夢とか希望だったことが目標となるように意識改革するというのと、こういう一流の人たちを知ること、大きな学びになると実感してもらえるためにやります。

これが、一応、こういう三つのコース。子どもコースは子どもから。子どものころから演技に触れることのできる場を提供して、将来的に俳優と活躍できるように育成していくと。一般向けは、ほぼ役者を昔やっていたって人が多いんですけど、演技のスキルアップはもちろん、コミュニケーションや視野を広げると。一般社会でも役立つような人間形成の場となることを目指しています。演技を経験することは、夢をかなえることの実験を積み重ねてじゃなくて、将来的にいろいろな面で生かすことができると思っています。なので、会社の営業とか接客業とかにも、すごくお勧めだと思うんで、もし企業研修とか新人研修とか、開催していきたいと思っていますので、コンサルタントの方じゃなくて、映画監督とかがやるような研修としてやりたいと思っていますので、もしご興味があればご連絡ください。

広島映画の製作ですが、映画は祭りだと。これは深作欣二監督の言葉です。地方で映画をつくるには、地元の皆さんの協力が絶対必要なんです。だから、祭りみたいな感覚で、皆さんで盛り上げていきたいと思っています。

映画はずっと残ります。最低50年残りますし、海外の映画祭で認められたら一気に注目度がアップしますし、求心力と予想外の爆発力を持っているのが映画です。でも、なかなかそんなふうには、簡単にはいきませんが、何事も、ポンと出たとしても10年かかっているということがありますから、地道にとにかく、つくり続けていければと思っています。

それで、僕は「ムビキャラプロジェクト」というのを勝手につくっているんですけど、これは映画を通してまちの良さを知ってもらい、まちに活気と経済効果をもたらすプロジェクトです。まちの埋もれた良さを映画にして、日本全国や海外へアピールすると。キャラクター商品を企業と開発して、話題と経済効果をつくりだす。それで、映画だけじゃなくて、映画の撮影前ぐらいからイベントをして、話題づくりをして、認知度を上げて、映画公開に向けて、まちと映画を盛り上げていくと。

題材なんですけど、いろいろもういっぱい考えているんです。アクションとかサスペンスとか、いろいろ考えているんですけど、今日はそのなかのいくつかで、妖怪、ロードバイク、お好み焼き。

妖怪というのは、僕は三次生まれで、三次は育っていないんですけど、三次に「稲生物怪録絵巻」というのがあります。ご存じですか、皆さん、これ。江戸時代に妖怪と30日間にもおよび、多くの妖怪と戦った男の逸話というのが残ってまして、比叡山のたたり石とかありまして、『ゲゲゲの鬼太郎』の水木しげる先生とかも、実はこれをすごくアイデアにしてつくっているんですけど、実はあまり広島の人も知らないもので、これは僕はものすごく貴重な知的財産だと思っています。

どういう話にするか、ちょっとまだ考えてはいないんですけど、映画にして。この映画を撮るときは、イベントを、例えばどういうふうに展開していくかという、例えばこういう、全国から広島に来るバスツアーみたいな、妖怪バスツアー、広島から三次でもいいんですけど、「たたり直行便」。泣き放題、叫び放題。

キャラクター商品とかも、こういう、いろいろなグッズができると思うんですね。例えばですけど「タタリバー」。「アタリ」じゃなくて「タタリ」が出るという。シュークリーム、それから、とろけるタンシチュー、誰も思っていないと思いますけど、これ、「コワイボウ」。キャンディー、和菓子、お好み焼き。こんなこと、いろいろなんでもいいんですけど、かわいくしたらこんな感じですね。

こういうことをやったりとか、イベントとしては、脱出ゲームとか。アイドルグループ「タタリーズ」とか。こういうこと、いろいろな展開が

できるなど。一つの映画に、まちな映画に対して、いろいろこういうことをして、何かできないかなと思っています。

ロードバイクは、もうこれは、しまなみ海道です。瀬戸内海の美しさ。今、カメラがドローンとかゴープロとか、ものすごく技術が発達して、ものすごい臨場感の映画が撮れるということで。東京オリンピックとかに合わせて、こういうのができたらなと思っています。

そして広島といえば、お好み焼き。食をテーマにした映画はすごくたくさんありまして、香川県では『UDON』というのがありました。広島といえば、お好み焼き。これを、例えばキャッチフレーズはこういう感じですね。食を題材にしたのは、やっぱりすごく話題になりますんで、一番は「広島風」お好み焼きとか、そういうふざけた呼び名を抹殺して、お好み焼きといったら広島というのを全国に浸透させたいと。

内々な話、映画は広島の内々じゃなくて、キャベツ、ネギの農業、小麦、麺の製粉業、ソースという業界も巻き込んで、全国的なものにできたらなと思っています。いかにして、お好み焼きが広島のソウルフードになったかと。戦後の焼け野原のころからお好み焼きを焼きた、お好み一家の話というようなことで考えています。

演劇なんですけど、最後です、これは。これから私の仕事と絡めて話しますが、今はすごく演劇が熱いです。音楽もそうなんですけど、ライブというのがすごく強みで、演劇公演において東京、名古屋、大阪と来たら、広島は素通りされて福岡に行っちゃうんですね。これはやっぱり広島が、演劇、入らないという演劇業界のイメージもあるようで、演劇文化が弱いかからだと、これも思っています。

だから、もっと演劇もやっちゃえということで、やっていきたいなと。映画は、毎年つくるのはすごく大変なんですけど、演劇はもうちょっと身軽なんで、少し、毎年できるかと思っています。

それで今、うちと石原プロモーションでコラボしまして、ホテル劇というのをやろうと思っています。これは、こういうところで、ディナーショーの演劇板です。ご飯を食べたあとに芝居を見ると。ファンミーティングも兼ねて、ちょっと距離を近くしてやっていきたいなと。最近、3人の新人も入りまして、こういう人もお披露目をしながら、全国主要都市と、もちろん広島も回りたいなと思っています。これも、石原プロと毎年開催できるようにしようと思っています。

ただ、まだ広島も、ホテルも何も決まっていなくて、もしどこかいいところがあればご紹介ください。

あと、こういうテント芝居もやろうかと思っています。これは、ある日まちなかに、こういうテントが出てくると。ここで、例えばお好み焼き舞台の映画をやって、そのあとに映画版につなげるとか。そういうふうな点と線で、点と点が線になるような展開をしていきたいなと。これも毎年開催して、いずれは演劇祭、全国各地とか世界からも人が集まってくるような、そんな場にしたいと思っています。映画と舞台を融合して、映画をつくって、広島を盛り上げていくと。

以上が僕の広島でやりたいことで、こういうのとは別にアクション映画とかサスペンス映画とかも、いろいろ企画はしていますし、中国の映画会社と、今、提携して、中国との映画もやっています。僕の仕事のテーマは、広島を盛り上げることと、海を越えようということなので、海外に向けた映画づくりもしていきたいと思っています。

希望学というのがありまして、希望を行動によって何かを実現しようとする気持ち。その希望は、伝播(でんぱ)します。誰かが行動すれば、周りに影響します。思いは生き物ですから、思いがある限り、つながっていきます。そんなふうに、僕は物づくりをしています。と思っています。

広島の企画は、広島の皆さんの協力がないとできない。金だけ

出して何もなかった、つまらないとか言われぬように、もしかして言っている人もいるかも、言われているかもしれないですけど、関わった人を裏切らないように、僕もふるさとをなくさないように、広島で活動していきたいと思っています。

そして、ご協力していただいた皆さんにリクエストできるように、ビジネスとしても成功できるように。僕は、ビジネスは素人です、皆さんのほうがプロフェッショナルなんで、何かいろいろ教えていただければと、アイデアをいただければと思っています。

今日話した企画、もし何かピンときたり面白そうだなと思ったら、ぜひとも一緒に映画をつくっていただきたいと思っています。また何か、いいネタがありましたら、じゃんじゃん教えていただければと思っています。

映画は、もう総合芸術です。だから、誰と一緒に働か。その働く人を大事にします。この人たちと、こんな仕事ができたとというのが一番楽しい喜びでありますから、どんな仕事もそうでしょうけど、そういうふう楽しくやっていきたいと思っています。

だから僕は、もう自分の可能性に限界を引かない、行動する、めげない、金がなくとも情熱を貫けば生きていけると、そう信じてやっています。だから最高の遊びは、物をつくる、物を考えることだと思っています。

僕は今後、大きく、鋭く、温かく、骨っぽく、そして色っぽい、そんな物語を書いていきたいと思っています。それで映画をつくって、皆さんと一緒に広島を盛り上げていければいいかなと、いきたいです。

今日はありがとうございました。

■出席報告 出席委員会

2016年6月9日(木) 会員数 87名

出席 73名 欠席 12名

来賓 1名 来客 5名

5月26日例会出席率 100%

5月度平均出席率 100%

■来客紹介 親睦委員会

鴨 義信 様(卓話来賓)

坂部由香子 様(東城)

後藤 茂行 様(東城)

加藤 永史 様(広島)

中本 俊之 様(広島南)

久保 弘睦 様(広島陵北)

■次回例会案内 2016年6月23日(木)

卓話:理事役員委員長 『退任挨拶 Part2』

食事:中華

ホームページ会員フォーラム(掲示板)について

当クラブホームページの会員フォーラム(掲示板)をご利用頂いているまたは閲覧している方に、会員フォーラムに新しい記事が書き込まれた際、各自のアドレスに《新着メール》を届けることができるようになりました。《新着メール》を希望される方は、事務局にお申込みください。

まだ、会員フォーラムを一度も見ることがない方はこの機会に是非一度ご覧ください。

会員フォーラムは会員ページの中のコンテンツです。会員ページにはログインが必要となりますので、会員証を手元にをご用意願います。